

ミャンマー紙への安倍総理寄稿文

2013年5月25日付ミャンマー紙3紙に掲載

(ミャンマ・アリン紙、New Light of Myanmar 紙、ミラー紙)

24日から、私は日本国総理大臣として36年ぶりにミャンマーを公式訪問し、テイン・セイン大統領をはじめ要人との意見交換等を行います。私自身にとっては、昨年1月以来の訪問となりますが、ミャンマーにおける昨今のめざましい変化を今回の訪問で実感できることを楽しみにしております。

日・ミャンマー両国は、これまでお互いの信頼関係に基づき、長く良好な二国間関係を築いてきました。私自身、祖父の岸信介総理、父の安倍晋太郎外務大臣に続き親子3代で訪問できることにミャンマーとの深い縁を個人的にも感じます。今回の訪問では、我々の先人たちが積み重ねてきた歴史的な日ミャンマー関係を新たな高みへと押し上げ、以下に述べる四つの分野に注力しつつ協力を行っていきたく強く希望しております。

第一に、両国関係の強化のために、日本が最も重要視していることは、ミャンマーの改革努力を後押しすることです。現在の民主化・国民和解・経済改革に向けた改革をさらに推し進め確実なものとし、更なる成果をミャンマーの方々に実感していただくことが重要だと考えます。日本は、幾多の困難を乗り越えてきたミャンマーの発展のために協力を惜しみません。持てる力の総力を挙げて支援していく方針です。

第二に、急速に活発化しつつある両国の経済関係を強化し、お互いの繁栄を目

指していきます。我が国は国際社会を主導し、ミャンマーへの延滞債務の解消措置を表明するとともに、いち早く約500億円規模の新規円借款を含む同国への本格支援の再開を表明しました。加えて、今回の首脳会談では更なる支援を表明する予定です。また、今回大勢の日本を代表する経済界のリーダー多数と一緒にミャンマーを訪問することからも明らかなおり、日本企業は非常に熱い視線をミャンマーに送っています。日ミャンマー双方にとってウィン・ウィンの結果がもたらされるよう、日本政府は両国の経済関係の強化に向けた取り組みをしっかりと後押ししていきます。

第三に、日ミャンマー関係の新たな基礎づくりのためには、それを支える人と人との交流や文化交流を一層進めていくことが必要です。私も妻も個人的にミャンマーを含むアジア諸国に小学校を寄贈する取組を進めてきましたが、日本政府としても、「人を育てる」ことについての取組を一層進めていきます。

最後に、ミャンマーと日本を取り巻く地域・安全保障環境についても今回の訪問を通じて共通の認識を深め、議論や協力を強化していきたいと考えます。

日本には多くのミャンマーファンがいます。日本とミャンマーの関係は良好です。しかし、それに安住することなく、より良い関係へと引き上げていきたいと考えます。今回の私の訪問が両国の協力関係をより高い次元へと高め、新たな歴史の1ページを開く基礎を築く機会になることを期待しています。

(了)